防災士＊派遣委託等 実施報告書

特定非営利活動法人　防災士会みやぎ

件　　名	№４０令和２年度　　大崎市立古川南中学校防災研修
依 頼 先	大崎市総務部防災安全課（大崎防第685号R.2.10）
開催日時	令和２年11月27日　8：30～10：30
開催場所	大崎市立古川南中学校 ご担当者：狩野　昌子先生（主幹教諭）
聴 講 者	大崎市立古川南中学校１年生
講 師 等	（講　師）保田真理 （補助者）高橋弘樹
活動概要（内容、プログラム、行程など）	第一部：気象庁から発表される注意報から特別警報の表を見ながら、生徒が避難のタイミングとどこに避難するかを考えクラスの仲間と話し合いをした。 第二部：災害への備えを避難行動に活かすというタイトルで、避難を考える材料として、ハザードマップをしっかり確認すること、過去の被害も参考にして自宅の被害を想定すること、気象庁から発表される情報をもとに市が発令注意報から警報までのどこで避難行動を起こすべきか、事前に確認しておくことなどを、災害の状況変化と認知バイアスから説明した。
気づき、参観者の様子、工夫した点、今後のための参考となる事項等	コロナ禍で、体育館に学年全員を入れるために、感染対策も工夫されていた。市の指定避難所が水害ではほとんど使えないことから、指定避難所そのものを見直すことも必要だが、各自が安全な場所を見つけて避難場所を決めておくことの重要性を再確認した、また、大崎市から担当職員が参加されたので、備蓄物資が納められている倉庫が浸水域になっている校庭に設置されていることなど改善点も指摘した。 生徒の家庭での備えはまだ始まったばかりで十分では無い印象を受けたが生徒からは改善の意思が感じられた。情報の取り方もスマホを持っている生徒も多かったが、エリアメールを確認した生徒はほとんどいなかったので、今後は正しい情報の取得方法なども指導して行く必要がある。また、家庭でも避難に関するコンセンサスをしっかりと取る必要性がある。要望があれば、引き続き学校へのアドバイスを継続して行く必要性も感じる。
配布資料使用ツール	パワーポイントを使って講演した。
報 告 者	保田真理

添付資料、写真等

① 生徒の教室での事前活動	② 生徒の教室での事前活動見学
③ 講座の様子	④ 講座の様子
⑤ 講座の様子	⑥ 生徒代表からの感想発表